

## 札幌医科大学附属病院 研修医の医療行為についての指針 <医療安全管理面からの注意事項>

平成20年4月作成

令和5年8月改正 最終更新 臨床研修運営会議承認(令和5年7月26日)

### I 基本原則

- 1 研修医のすべての医療行為には指導医の同意が必要です。但し、研修医が出す指示、実際の医療行為は、指導医の同意を得た上で行われていると理解して外来および病棟等の業務は進行します。
- 2 ハイリスク薬（糖尿病用薬、抗悪性腫瘍用薬、血液凝固阻止薬（高濃度ヘパリン、ワルファリンカリウム）、注射用カリウム製剤）の処方および投与を研修医がしてよいか否かは診療科毎に異なるため、各科個々の方針に従うこととします。
- 3 各規定は通常の業務の場合での取り決めであり、患者の状態が急変し指導医の指示を受ける時間的余裕がない場合を想定したものではありません。
- 4 緊急時で研修医以外にその場に指導医がいない状況において、「急変患者を目の前にした医師が応急処置など当然行わなければならない医療行為を研修医が行う」ことは医師としての当然の義務です。  
そのような場合には、可及的速やかに指導医若しくは上級医の指示を受けられるよう対策をとると共に、指導医の指示が得られるまで研修医の判断で最善の医療を行うことが必要です。
- 5 本規定を遵守しながらも起こってしまった医療事故に対しては、病院がその責任を負います。

### II 研修医が行ってよい処置・処方の基準

札幌医科大学附属病院における診療行為のうち、研修医が行ってよい処置と処方内容の基準を示します。

注) 実際の運用に当たっては、研修医個々の技量、各診療科・診療部門における実状を踏まえ

柔軟に対応してください。施行が困難な場合は、無理をせずに指導医に任せる必要があります。

#### [研修医が行ってよい処置・処方の基準]

- (A) **研修医が単独**で行ってよいこと  
ただし、初めて実施するときは指導医同席で行う。
- (B) **指導医の同席の下**であれば行ってもよいこと  
ただし、**手技に十分習熟**した場合に限り、**指導医の許可**があれば**単独**で行ってよい。
- (C) **必ず指導医の同席の下**で行わなければならない。

## 1 診察

項目	A	B	C
全身の視診、打診、触診	○		
簡単な器具（聴診器、打腱器、血圧計など）を用いる全身の診察	○		
耳鏡、鼻鏡、検眼鏡による診察	○		
直腸診		○	
内診		○	

## 2 検査

### (1) 生理学的検査

項目	A	B	C
安静時心電図	○		
Holter心電図		○	
負荷心電図			○
呼吸機能（ただし、アストグラムは不可）	○		
聴力、平衡、味覚、嗅覚、知覚	○		
視野、視力	○		
脳波	○		
筋電図		○	
神経伝導速度	○		
眼球に直接触れる検査		○	

### (2) 病理学的検査

項目	A	B	C
針生検			○
神経・筋生検			○

### (3) 内視鏡検査など

項目	A	B	C
耳鏡・鼻鏡・喉頭鏡	○		
気管支鏡			○
胃食道内視鏡			○
大腸内視鏡			○
直腸鏡			○
肛門鏡		○	
膀胱鏡			○

(4) 画像検査

項目	A	B	C
単純X線撮影	○		
超音波		○	
CT		○	
MR I		○	
核医学検査		○	
血管造影			○
消化管造影			○

(5) 血管穿刺と採血

項目	A	B	C
末梢静脈穿刺・採血と静脈ラインの留置 ・ 血管穿刺の際に神経を損傷する危険性があるため、確実に血管を穿刺する必要がある。 ・ 困難な場合は無理をせず指導医に任せる。		○	
動脈穿刺・採血 ・ 橈骨動脈、大腿動脈で行う。肘窩部では上腕動脈は正中神経に伴走しており、神経損傷には十分注意する。 ・ 困難な場合は無理をせず指導医に任せる。		○	
動脈ラインの留置			○
中心静脈穿刺（鎖骨下、内頸、大腿）			○
中心静脈カテーテル抜去			○
小児の採血、動脈穿刺 ・ 年長の小児では、指導医の許可を得た場合、この限りではない。		○	
血液型検査・交差適合試験	○		

(6) 穿刺

項目	A	B	C
皮下の嚢胞	○		
深部の嚢胞		○	
皮下の膿瘍	○		
深部の膿瘍		○	
関節		○	
胸腔			○
腹腔			○
膀胱			○
腰部硬膜外穿刺			○
腰部くも膜下穿刺（腰椎穿刺）			○

## (7) 産婦人科

項目	A	B	C
膣内容採取		○	
コルポスコピー			○
子宮内操作			○

## (8) その他

項目	A	B	C
アレルギー検査 (貼付)		○	
長谷川式認知症スケール	○		
Mini Mental State Examination (MMSE)	○		
心理テスト (質問紙法)		○	
〃 (投影法)			○
知能テスト			○

## 3 治療

## (1) 処置

項目	A	B	C
軽度の外傷・熱傷の処置、包帯法	○		
外用薬貼付・塗布	○		
気道内吸引、ネブライザー	○		
浣腸	○		
胸骨圧迫	○		
除細動		○	
人工呼吸	○		
気道確保・気管挿管		○	
気管カニューレ交換		○	
胃管挿入		○	
導尿		○	
眼球に直接触れる治療		○	
ギプス巻き			○
ギプスカット			○

## (2) 注射 (薬剤投与)

項目	A	B	C
皮内	○		
皮下	○		
筋肉	○		
末梢静脈	○		
中心静脈		○	
動脈		○	
輸血		○	
関節内			○

## (3) 麻酔

項目	A	B	C
局所浸潤麻酔 ・ 局所麻酔薬のアレルギーの既往を問診し、説明・同意書を取得する。	○		
麻酔管理中のモニタリング ・ 麻酔管理中のモニターを観察し記録する。	○		
術前訪問・術後回診 ・ 患者を診察し麻酔前の説明を行う。判断困難なことは指導医に判断を仰ぐ。	○		
脊髄くも膜下麻酔			○
硬膜外麻酔			○
全身麻酔管理 ・ 麻酔導入、覚醒を含む。			○
各種末梢神経ブロック（腕神経叢ブロックなど）			○

## (4) 外科的処置

項目	A	B	C
抜糸、創傷処置	○		
皮膚の縫合	○		
皮下の縫合	○		
深部の縫合		○	
皮下の止血	○		
深部の止血		○	
皮下の膿瘍切開・排膿	○		
深部の膿瘍切開・排膿		○	
ドレーン管理・抜去		○	

## (5) 処方

項目	A	B	C
内服薬（一般）	○		
〃（向精神薬）			○
〃（麻薬）			○
〃（ハイリスク薬）			○
注射薬（一般）	○		
〃（向精神薬）			○
〃（麻薬）			○
〃（ハイリスク薬）			○
理学療法	○		

4 その他

項 目	A	B	C
血糖値自己測定指導	○		
インスリン自己注射指導			○
病状説明			○
病理解剖			○
病理診断報告			○
死亡診断書作成			○
診断書・証明書作成			○